

二十八日午前五時半出發西に向ふ、道は上戸地シヤンホチに至つて愈々沙漠地帯を現じ、此處に休憩午後五時再發す、約三里の處に、新設中の驛傳兼官店あり、次で五里を進みて大石頭に一空房を存し又五里にして纏頭の一軒家及井あるのみにして此外沿途飲料水の求むべきもの無し。翌二十九日行程總計約二十里、車爾楚チョルチュに着す。此處は人家十六戸、附近に梧桐の疎林點在せり。

三十日野雲溝イェユンコウ（又伊什瑪イシマと稱す）を過ぎ行程約十一里、車的爾チョデに着す。車的爾沙島は人家合計百六十戸、悉く纏頭のみにて他種族を交へず。氣候は結氷十月、解氷二月、三月に及んで種子を下し、九月收穫す、雨期は六月三四回、十一月に至れば西風強く、且つ降雪期なるも、降雨と同じく二三回に過ぎずして、量三四寸を越ゆること無し。

明れば七月一日、行程約八里、洋薩爾ヤンサルに着す。途上梧桐の疎林處々に散在し、土地濕潤鹹氣を帶び、飲水皆濁れり。洋薩爾沙島は人家約二百あり。二日西南に進む一里餘、此間田家左右に點在し、從て耕地多く、夫より數町間は灌木帯を成し、次で一望只々短小の蘆葦叢生するもの一里餘、遂に白色の鹹土と爲りて、一樹なく一草生

白色の鹹
土一樹な
し